

## 第3回 植栽樹木検討専門委員会 議事録

平成 22 年 8 月 31 日

### 開 会

<清水総室長 挨拶>

- ・全国植樹祭は、8月26日、国土緑化推進機構の総会・理事会が開催され、鳥取県での開催が正式に決定。平成25年度万全を期してお迎えしたいと考え。
- ・今日は、第2回までの議論を踏まえ、植樹森林の将来目標とする姿と植樹方針(案)、植樹用樹種の候補案を決定していただきたい。

<濱江主幹>

- ・本日の専門委員会は、ご出席が7名であり、実行委員会会則第12条第8項の規定により、植栽樹木検討専門委員会が成立。
- ・議長は会則により、委員長が務める。

### 議 事

<佐野委員長>

- ・前回まで基本方針の検討と現地の視察を実施。それらに基づいて、基本方針と、植栽する樹木についての簡単なまとめを作った。事務局の説明を求める。

<事務局説明>

#### 資料1 第64回全国植樹祭・植樹する森林について

- ・第2回委員会で配布した「未来の森林の姿、森林づくりの手法(案)」を修正したもの。

#### 資料2 第64回全国植樹祭の植樹方針(案)

- ・第1回委員会で提示した植樹方針(案)を修正したもの。

#### 資料3 植栽樹木推薦リスト

- ・第2回委員会(現地確認)を踏まえて、委員から植栽樹木推薦リスト(案)を収集、集計したもの。
- ・資料1～3を参考に、植樹用樹木の候補案を決定していただきたい。なお、植栽樹木は、実行委員会に報告し、計画書にも記載するもの。用意できそうにないものは、候補から外しておいてほしい。

### 質 疑 応 答

#### 主な意見

##### 資料1 第64回全国植樹祭・植樹する森林について

- ・花回廊は、里山に人間が手を加えて、人間と自然の共存するような森林を造っていく。鏡ヶ成は、開墾地を自然に戻すような植栽を最低限行うこと。
- ・更新を補助するため行う「地表かき起こし」は、全面的に地表を剥いでしまうようなかき起こしでなく、必要最低限のかき起こしとする。必要ないところはかき起こさないで、そのまま自生している樹木を残す。

##### 資料2 第64回全国植樹祭の植樹方針(案)について

#### ○種子の採取範囲

- ・ブナは、鏡ヶ成の周辺と大山の北方では、遺伝子構成が違うということがわかってきているので、植栽地に近いところから種子を採取すべき。ブナ以外の樹種は遺伝子構成の違いがまだよくわかっていないが、遺伝子攪乱にならないように、なるべくその地域・地元の種子や苗を使うこと。

#### ○ブナの遺伝子

- ・北側からくるクレードと南側からくるクレードの境が烏ヶ山にある。烏ヶ山の東側と西側でも違う。烏ヶ山の東は蒜山と同じ遺伝子構成。同じ大山山麓にあっても違いがあるという認識が必要。

### ○ブナの苗木と育成

- ・種子は、三ノ沢近辺あるいは烏ヶ山の木谷の奥で採取。大木が無いところでは採種できない。
- ・今秋、種子を採取して育てても、25年の春に、20～30cmにしかない。手持ちの苗で、現在、20～30cm のものをあと2年間育成し、60～70cm にしたものを植えた方が良い。ブナの苗木は成長の良いものではないので、最初から大きいモノを植栽しないと、草に負ける可能性がある。
- ・ポット苗は、鉢苗なので、この秋、来春と、再来年の春、床替え・鉢替えをしないといけない。
- ・現在、苗床で育てている苗木を、24年秋にポットに移し替え、植樹祭での使用を計画することは危険。秋に植えても根が回らない。植えるのなら、夏を越すまで6月中には鉢割をする。夏を越させないと根が回らない。
- ・落葉広葉樹の植栽では、6月にふるい苗の使用は難しい。苗木は、6月上旬一番水分を要求する時期にあたるため、1時間でも陽が当たる中に放置すれば、根がすぐに乾燥してしまう。鉢に上げないと活着しない。ふるい苗の使用を考えるなら、4月上旬までの植栽となる。
- ・当年性苗木の植栽は、生分解性ポット苗を使うとかなり活着も良い。あまり下草が多くない平坦地で、光が充分あり手入れのできる場所ならば、成長は可能。
- ・平坦地で、植栽後、しばらくの期間保育をすると的前提であれば、苗高60cm の苗木からでも、成長が可能。1年目の成長は少ないにしても、2年目3年目から伸張り、5年間に1m20cm か30cm を越してさえしてくれれば、その後は心配しなくても良い。

### ○ブナの種子

- ・去年が成年(なりどし)だったが、今年は採種できない。実が成っていない。

### 植栽樹木の本数について

- ・基本方針に、生物多様性の確保があるので、なるべくたくさんの樹種を植えたい。
- ・会場ごとに考えた場合、ある樹種を主体的に植栽するとすれば、比率をどの程度にするのかも考える。種子を取りやすい樹種を沢山採取し苗木とするのではなく、色々な樹木を混在させることは大事なのだが、この山はクヌギの山にするとか、コナラの山にするとか、主体となる樹種を決めて、部分的に珍しい樹種があるという方向に持って行くべきだ。ホオノキが珍しいからといって、沢山植樹して、山を作ってしまうことは自然状態と比べておかしなことだ。

### お手播き時期と発芽について

- ・植樹祭の開催される6月上旬は種を播く時期としては好ましくない。貯蔵している種子が、その時期に播種して、発芽活着することが確認できればよいが、播いてみないとわからないという樹種は選定できない。

### 山取りが必要な樹種について

- ・現場に自生している樹種であれば、更新が不可能では無い。もし自然生えがあれば、それをポットに移して使用してもかまわない。
- ・山取り苗は、1本や2本が用立て可能な範囲。何10、何100必要となると、鉢に入れる適当なサイズの自然生えの調達難しい。ただ、ブナは調達しやすい樹種で、10～15cm の自然生えを取ってきてポットに植える。他の雑木の自然生えは、根が深く入りすぎているため、簡単には掘れない。
- ・めずらしい樹種で、どうしても植えたいという樹種は、山取り苗にしてでも、鉢に入れて活着させるということではなければ調達できない。

### 珍しい種子の採種方法について

- ・地元の子どもたちにもきちんと指導の上、協力をいただき、種子を探してもらえば、かなり見つかるような気がする。
- ・種を見て判別できるものもあるが、めずらしい種になれば、何なのかかわからない種子も出てくる。専門家の協力が必要。
- ・鳥取大学の学生に協力いただければ、かなり手に入ると思うが、養成経験がない樹種は、播いても発芽に2～3年かかるものもある等、植樹祭での使用には危険を感じる。珍しい樹種については、たとえ10～20本でも植えるのは良いと思うが、果たして苗木が出来るのか不安。

## お手植え樹種の選定

### 基本的な考え方

- ・植樹予定地の花回廊は、常緑樹と落葉樹の混交林。その成林状況を考えると、①常緑で大木になるものに加えて、②里山に見られる花の美しさ等特徴のある落葉樹、③かつてから里山で利用のあった樹種を、3種類ずつ選定。

### 選定樹種

- ・天皇陛下は、アカマツ、スダジイ、コナラ。郷土の代表的な樹種に加えてを代表する抵抗性のアカマツ。
- ・皇后陛下は、ヤマボウシ、ウワミズザクラ、ホオノキ。綺麗な花等の咲く、美しさを重視した郷土の樹種。

選定経緯等は、別表1のとおり

### <事務局>

- ・お手植え樹種を植栽後、移動可能な範囲は、会場から大きく離れてはいない同一会場内。花回廊でのお手植えを、鏡ヶ成に持って行くということは出来ない。
- ・天皇皇后両陛下の記念植樹と代表者記念植樹はプロの育成した苗木を使用。一般県民に支援していただくのは、一般植樹用の苗木で、子供たちも含めた全体で支えていくという形でやれば一番良いと考えている。

## お手播き樹種の選定

### 基本的な考え方

- ・お手播き用の種子は、県内3地区(東部・中部・西部)で採取。お手播き後は、苗木に育成し、採種地と同じ地区内に配布する。(遺伝子攪乱防止)。配布された苗木を植樹いただく、県内の市町村、教育施設、病院、その他の公共施設等の利用者が、それを見て、植樹祭のことを、楽しく思い出せる様な、特徴のある樹種を2種類ずつ選定。

### 選定樹種

- ・天皇陛下は、クリ、ヤマザクラ。皇后陛下は、イロハモミジ、ヤマガキ。

選定経緯は、別表2のとおり

## 一般植樹樹種の選定

### 基本的な考え方

- ・生物多様性を確保するため、なるべく多くの樹種を植栽することとするが、種子の確保・採取や苗木育成上の問題等考慮の上選定。ただし、今後、苗木の供給が可能となった樹種が見いだされた場合、新たな選定樹種として追加することとする。

### 選定樹種

- ・花回廊は、アオハダ、アカガシ、アカマツ、アベマキ、アラカシ、イヌシデ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、エゴノキ、エノキ、カキノキ(ヤマガキ)、クリ、クロモジ、ケヤキ、コナラ、コハウチワカエデ、シラカシ、スダジイ、ホオノキ、マユミ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、ヤマモモ等 (25樹種程度)
- ・鏡ヶ成は、アオハダ、アズキナシ、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ウワミズザクラ、オオカメノキ、クリ、クロモジ、コハウチワカエデ、サワグルミ、タニウツギ、ツノハシバミ、トチノキ、ナナカマド、ブナ、ホオノキ、ミズキ、ミズナラ、ミズメ、ヤマボウシ等 (20樹種程度)

選定経緯は、別表3のとおり

## 今後のスケジュール

- ・決定された植樹用樹種の候補案は、10月中旬頃開催予定の実行委員会第2回総会に報告